

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年4月17日(月)

みんなの居場所

気持ちも新たに、令和5年度がスタートしました。「コロナ禍による行事の縮小や中止を乗り越え、長洲小学校の教師は子供達の教育活動を諦めません。今年度も新たな教育活動を創造していきたいと張り切っています。

昨年度から執筆を開始したこの校長便りが接点となって、多くの保護者の皆様からお声掛けを頂きました。同じ保護者、地域住民として、私自身の考えを理想や目標を書くことで、同じように読者の皆様にも教育について考えて頂くツールとなりました。しかし、特に反響が多かったコーナーは「自分を語る」でした。少しでも身近に感じて頂けたのなら有難いことです。令和5年度も全力で頑張ります。

昨年度も紹介した詩を、初心を忘れないという意味で再掲載させて頂きます。

「おかげさまで」

夏が来ると冬がいいという冬になると夏がいいという太ると痩せたいという痩せると太りたいという忙しいと閑になりたいという閑になると忙しい方がいいという自分に都合のいい人は善い人だと誉め借りを都合が悪くなると思いい人だと貶す借りを都合が悪くなると思いい人だと貶す金をもてば古びた女房が邪魔になる世帯を持って親さえも邪魔になる衣食住は昔に比べりゃ天国だか上を見て不平不満に明け暮れ隣を見ては愚痴ばかりどうして自分を見つめないか静かに考えてみるがいいいったい自分とは何なのか親のお陰 先生のお陰世間様のお陰の塊が自分ではないのかつまらぬ 自我妄執を捨てて得手勝手を慎んだら世の中きつと明るくなるだろうおかげをおがを捨てておかげさまでおかげさまと暮らしたい

不平不満ばかりでは成長は望めません。人生において幾多の災いが降りかかるとは当然ですが、明るい元気で、「人事を尽くして天命を待つ」で頑張ります。

独り言

春休みはハタバタと過ぎた。卒業式後は少し静かになったが、この頃「おかげ」で思うのだが中々そうはいかない。新年度がスムーズに進み始めるように、やるべきことはやらなければならないから。

春は新生活がスタートする季、教員達も新たなスタートに胸躍らせているが、そんな教員達も我が家に集まり、BBQを行った。BBQと言っても住宅地で火を燃やすのは危険なので、車庫の中にホットプレートを持ち込み、みんな好き勝手に肉を焼いて食べるスタイルだ。教員達の年の差は30歳、教員達の統制り活動の様相を呈している。それぞれ違う現場で活躍している子供達も、楽しんで話している場面が改めて教師冥利を感じた。

こんな気持ちを感じられる教師は私にどうして天職なのかもわからない。

シリーズ「自分を語る」#009

昨年度から執筆を始めたこの「自分を語る」ですが、思いの外反響がありまして今年も調子に乗って書かせて頂きました。

昨年度の最後には、私が東京日帰りの出張を体験したエピソードでした。露が関のビルの中で「世の中」はこんな職場があるのだと「...」と痛感した国際線勤務、まだまだ沢山のエピソードがあるかな。

勤務初日のことでした。私の隣に座っているスペイン語の通訳さんが、「一言」澤田先生、貴賓館学生のホスピタリティを習得して頂きたいです。そのついでに、留學生が生活できません。ホスピタリティを習得して頂きたいです。補助金交付要項です。貴賓館留學生の生活費は、熊本県の予算の中身、私が担当した事業に割り振られたお金から、貴賓館留學生に対して「補助金」として与えらるるのです。交付要項を制定しないお金が出せないので、同じ島の職員で聞きながら、何とか切り抜けました。補助金って、行きつ戻りつ、税金です。血税ですね。何故大切な税金を外国から来た留學生や研修員に与えるのか。それは、この事業によって将来的に熊本に効果をもたらされるという見込みから与えらるるのです。注ぎ込んだ予算と経済効果がでただけ上がったのかを、費用対効果と、経済効果が上がらない事業は徹底的に削られていきます。中々に厳しい現実です。さて、費用対効果、働いていなくても誰かがやる必要はないわけですね。私も日々考えさせられます。自分のパフォーマンスがどれだけ効果を生んでいるのか...ってね。

この、補助金交付要項を制定した日だったと思います。プシキからその貴賓館留學生が来日しました。本来ならば、担当者の私が空港まで迎えに行かなくてはなりません。しかし、あまりにヒキナーだったので、隣のスペイン語の通訳さんが福岡空港まで迎えに行ってくれました。この通訳、私は国際線を待つことになり、いよいよ対面です。こちらも、熊本県人会に属する日系二世の方です。一人はエンジニア、一人は商社マンですが、若くしてエリートです。エンジニアの方は熊本大学工学部、商社マンの方は熊本県立大学総合管理学部で学んで頂きます。大学の選定に当たっては前住者(澤田一息)が行っています。その点については苦労はありませんでした。また、宿舎についても同じでした。しかし、大学のすぐ近くで暮らすため、2人の地理的不便があったため、私はじりりへの間々人のお抱え運転手を務めました。熊本県の生活が淋しい思いをしないよう、ほぼ毎日、顔をあわせるように、大学と友達ができるまでは私が及たのよなものでした。でも、気になりませんか？言葉は通じたのかってね。その点は、私澤田、英語フラッシュですか？ってことです。2人はレベルの異なる人の中で日本語を話して、日本語のみ、しかも熊本弁だけを話していました。

2人を受け入れてからも、まだまだ訓練は続きます。しかも、これから、韓国の研修員の受け入れも並行して行っていきます。... (つひ)

強歩会の感懐紹介

5年 猿渡ひな

私は最初「42.195kmってなんかすごすぎるのかな？」とワクワクしていた気持ちで歩いていきました。はじめて5〜6kmは余裕でした。でも1回目の休憩の後からだんだん腕が痛くなってきました。「本当は歩きたくないけどできるかなあ……」と奮えてしまっただけだったけど、その時に同じ班の友達に「絶対みんな「ゴールしようねー」とか「頑張ろうよ！」と声掛けしてくれて私も改めて頑張ろうという気持ちになりました。

前半はみんな元気な折り返し地点まで行くことができませんでした。後半は30km地点くらいまで来たときに足が痛くなってしまいました。だんだん最後で諦めずに歩き通すことができました。校長先生が仰っていた「お金では買えない何か」を感じることができました。私はずっと「何か」を「大きな喜び」と思っていました。

この強歩会は私にとって小学校の大切な心に残る思い出になりました。とてもよかったけど、それ以上に楽しかったです。だから、来年も参加したいです!!

強歩会の感懐紹介

5年 猿渡ひな

はじめての強歩会。私は娘と△コースに参加しました。正直、娘から話を聞いた時は、「人ってこんなに長い距離を歩けるものなの?」と不安な気持ちが入りかかったのですが、普段物静かな娘が、何故か頑なに歩きだがる強歩会がどんなものなのか、その楽しさを一緒に共有してみたい!!と思い、参加を決めました。長い距離を歩きたがった娘の出来事があったのですが、中でも特に印象的だったのが、班の子達が「お互いを支え合う姿」でした。無言になったお友達に声をかけたり、疲れが見えてきたお友達を気遣って「さっさと少し長めに休憩を取ったり、遅れちゃったお友達を待たせたり……。その数々の行動に「絶対みんな「ゴールするんだ!!」という子供達の強い気持ちや絆を感じました。きつくなってきた時にボソッと声掛けしてくれた前田先生、ペースダウンした時に一緒に歩いてくれた同じ班の保護者の皆さん、優しく接して下さった校長先生の教え子の皆さんの存在はどれも有り難く、心の支えになりました。また、通る慣れた道を歩くのもいつも新鮮で、不思議な気持ちでした。ゆっくり歩くと、普段見落としていた景色がそこには広がっていて、春の風を感じたり、草木や花に癒されたり、みんなで書いた「トン」は思い出の場所になりました。さっさと長い距離をたひだす「ゴールを目指して歩き続ける……。シンプルなんです。この42.195kmの道を通って、娘も私も「お金では買えない何か」を感じることができました。諦めずに歩き通して、みんなで「ゴール出来た」とは、間違いなく人生の財産になったと思います。一緒に歩いてくださった皆さん、サポートしてくださった皆さん、また一緒に歩きましょう!!

